

平成 21 年度～23 年度 習志野市事務事業評価表

1. 事務事業基本情報

事業名	No.15 谷津干潟アオサ対策事業			担当課	環境政策課		予算費目名	款 08	項 03	目 04		
事業概要 及び目的	①シギ・チドリ類の生息環境を保全する。 ②これまで取り組んでいるアオサ除去事業、市民クリーン作戦等を継続していくとともに、関係行政機関・市民・保護団体等との連携を図り、アオサ対策に取り組む。			成果 指標	①シギ・チドリの飛来数 ②清掃活動参加者数	年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
						予算額 (単位: 円)	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,000,000		
						決算額 (単位: 円)	100,800	430,500	765,450			
						従事職員数	3	3	3			
事業の 位置づけ	章	2	都市と自然が共生したまち	★左記施策(号)との結び付き 本市にとって貴重な自然となっている干潟の保全を行なう。	計画値	①45,000羽(国の管理計画目標値) ②1回あたり100名の参加	従事延べ日数	78	78	78		
	節	2	自然環境の保全・活用				民間活力の導入	現状は? : <input checked="" type="checkbox"/> 実現している <input type="checkbox"/> 将来可能性はある <input type="checkbox"/> 将来困難だが可能性はある <input type="checkbox"/> 余地なし				
	項	1	自然環境の保全・活用					相手は? : <input checked="" type="checkbox"/> 市民 <input type="checkbox"/> 市民活動団体 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・学校等				
	号	1	干潟や海辺の保全と活用					形態は? :				

2. 進捗状況

				平成 21 年 7 月 29 日記入					平成 22 年 6 月 10 日記入					平成 23 年 5 月 10 日記入
年度	21 年度評価 (20 年度実施した事項についての評価)				22 年度評価 (21 年度実施した事項についての評価)				23 年度評価 (22 年度実施した事項についての評価)					
実施計画上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由
完了した事項	・清掃活動を3回実施した。 ・職員清掃活動を6回実施した			アオサの大量発生につ いて、抜本的な解決策が 明らかになっていないた め。	・清掃活動を3回実施した。 ・職員清掃活動を6回実施した。			アオサの大量発生につ いて、根本的な解 決策が打ち出せてい ないため。	・清掃活動を2回実施した。 ・職員清掃活動を3回実施した。			アオサの大量発生につ いて、原因が究明 できておらず、現在、 環境省が調査中であ る。		
継続している 事項	・谷津干潟市民クリーン作戦を実施し、 国と協力してアオサ回収作業を実施している。				・谷津干潟市民クリーン作戦などアオサ回収作業を実施 している。				・谷津干潟市民クリーン作戦などアオサ回収作業を実施 している。					
未着手事項	・根本的なアオサ対策				・アオサの大量発生に対する根本的な方策の確立				・アオサの大量発生に対する根本的な方策の確立 ・所有者である環境省との役割分担の協議					
改善案	・環境省と協議していく。			成果指標	・環境省との協議 ・干潟内外における清掃活動の継続実施			成果指標	・所有者である環境省との役割分担の明確化 ・干潟外における清掃活動の継続実施			成果指標		
				実績値 ① 23,517 ②348	達成率 52% 116%			実績値 ① 15,328 ②191	達成率 34% 63.6%			実績値 ① 29,805 ②268	達成率 66.2% 134%	

3. 今後の方向性

		※課内協議を経て管理職が記入してください。				平成 21 年 7 月 29 日協議実施				平成 22 年 7 月 29 日協議実施				平成 23 年 5 月 10 日協議実施			
今後の方向性	成果の方向性	拡充				○					○						
	方向性	現状維持															
*根拠欄は、なぜその「成果の方向性」を選んだか?なぜその「コストの方向性」をえらんだか?別紙「評価の視点」を参照してください。	方向性	縮小															
	方向性	休廃止															
		休廃止	縮小	現状維持	拡充	コストの方向性				休廃止	縮小	現状維持	拡充	コストの方向性			
		★上記を選択した根拠 アオサの大量発生への対策については、今後環境省から方向性が示されることとなっており、それまでは現状の取組みを継続していくため															
方向性を実現するため実施すること(改革案)	谷津干潟の保全については、今後も市民協働で実施し、的確な管理と広報拡大をはかる。またアオサの大量発生への対策について、環境省へ解決策を策定するよう要望していく。																
前年度改革案の実施状況	■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。																